

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9

文君白頭吟

西京雜記卷三  
以自絕相如乃止

相如將聘茂陵人女為妾卓文君作

增續初府以西京雜記司馬相如將聘茂陵女子為妾卓文君作白頭吟曰  
重濤、嫁娶不須啼願得一心人白頭不相離相如感之乃止

答案

起 終

安政戊午

慶應丙寅

元彰

服部文庫  
117  
2186  
6



117 特  
2186  
6

若跪申視地啟足用傷



跪申視地足乃無害言欲為已視聽

ケテアルキ候左様致サス地面ヲ視ズニウハソラテアルク時ハ石ニツ

ミツキ或ハ踏又キシスベリナドシテ必ス足ヲ傷ル者ニ候其ノ如ク此

方ハ高宗ノ徒跪シテアルク同様ノ行届カ又者ニハヤニスレバは格ナモ有ルキ

ナレバ其方傳注能キ氣ヲ付ケテクレヨト仰ラレタルニテ仰光候

④ 邠律

階氣ヲ動ス

黍谷入春想邠律

黍谷アタリ春陽氣ニ成ルニ付邠律ノイヲ思ハル

春寒誰更須邠律

春寒ガマクワヨイガ誰ガ律

更將邠管聞春

風

律管ヲ吹暖氣ニナルカ

忽見春光融黍谷

忽見春光融黍谷

ナラヌカドウデア

吹律春風

入谷長

律フ吹テ陽氣如谷  
向ミテスイト陽氣ニ成ク

春暖何須鄒衍手

春暖ノ氣候ニ成クハ  
鄒衍ノ律モ不用ナリ

肱殺當年一鄒

ソノカニ鄒衍ハサ  
思ヒツラヒスルヲ

為吹鄒律及春暖

鄒律ニ成クハ  
陽氣ニ成クハ

入谷春風引鄒

律

春風ガ谷間ニ入  
陽氣ニ成ク

燕谷待春鄒管動

燕地ノ谷間モ春ニ近  
陽氣ガキサンリ

燕管

忽回黍谷春

律管ニテ直様  
陽氣ニ成ク

律谷春風入空寒

律管吹テ陽氣ニ成ク  
春風ガソコク寒ク

燕管

春近稍須鄒衍律

春モ近ヨリタルニ  
陽氣ノ至ルヲ待

黍谷春生暖風遂

黍谷ガ  
陽氣ニ

談天鄒衍

去

天文ノハシラズル人ガ  
別ナリ鄒衍天文ニ明ク  
面白日ノ天ノ此ヲスル  
則チテ人談天何ト云

漢宮仙律

律管ニテ陽氣ヲ動カ  
シテ

握管春

動初陽

漢宮ニテ律管吹テ  
陽氣ヲサソク

吹到陽春回黍谷

律管ニテ陽氣ヲ動カ  
谷同様にナル

握管春

回燕谷色

律管吹テ陽氣ニ成ク  
燕黍穀モ同様ノ様子

燕律初調鄒子管

律管ニテ阮俊ヲトノ  
ハシ

鄒衍ノ術

應同鄒子律

鄒衍ノ律同様  
デアラフ

封松

松ノ木ニ時  
多ク用

松蓋猶含風雨寒

松ノ蓋ハ今風雨ヲ  
ノ様様ツクニ高ル

于今風雨

封松蓋

松ノ木ニ時  
多ク用

秦代松風引雨來

昔風ガ今雨ヲサソ  
フテリ

避雨為

封秦大夫

秦ノ大夫ニ立リテ  
大夫ノ格ニシテ

孤松猶引秦時雨

一本松ノ木ハ  
昔風雨ノ様

枝密避秦雨

風動秦皇避雨枝

松ノ木ニ時  
多ク用

枝密避秦雨

枝ガ密ニ  
テ雨ヲサ

登高謾憶秦時事

裁賦兼堪比大夫

コレハ人材ヲ比シ  
テ松ノ大夫ニ封セラレ  
ルニ

登高謾憶秦時事

〇高クハ  
〇高クハ

〇高クハ

送秦時秋

送秦ノ時  
秋ノ

〇高クハ

〇高クハ

〇高クハ

送秦時秋

送秦ノ時  
秋ノ

〇高クハ

〇高クハ

〇高クハ

送秦時秋

送秦ノ時  
秋ノ

〇高クハ

〇高クハ

〇高クハ

送秦時秋

送秦ノ時  
秋ノ

〇高クハ

〇高クハ

〇高クハ

送秦時秋

送秦ノ時  
秋ノ

〇高クハ

〇高クハ

〇高クハ

送秦時秋

送秦ノ時  
秋ノ

〇高クハ

〇高クハ

〇高クハ

海島ノ人田横ニテツクイテ月殺シ女採ナ大國ノ送君萬里篇 萬里ノ篇ヲ唱ヘテソモトシ 芭  
凡聞キモ世ニイフハ今テハ其採人ニアル又 芭

雨路忽消人已遠 芭上ノ雨路カモロクナリ物ノ様ニ 曾聽田横能受士 芭上ノ士ニ多ク  
シラヌ送テハ行テモハシメ

ハカ子テ聞 肥殺田横五百人 田横ガ手下ノ五百人ニサシ 賦ニ悲風海島中  
テハタ

元帝ノ凡カ物サニシク 漢帝大風動 芭露 大凡ノ漢ノ高祖ノ歌ノ名ニ 漢高祖ノ傳ニ  
海島中ニ吹ク

芭上ノ露ヲ吹クコトカモテ故モ 秋深芭露路下萬里 秋モフキテ萬里アリ 芭露カ  
同振イカモモロイテアル

大風度海島 大凡ノ歌ヲウタフニ其傳 由來大國得其人 元來大國ガテ格別ニ  
海島ニテハヒケタ

死恨田横五百人 田横ガ手下ノ五百人ニ死テモ 厭聞萬里歌 萬里歌ヲ堪  
無カシ遠恨ナク有コトモ

聽行人芭露路 一國中途中ノ人ニテ悲歌ヲ 歌添芭露路愁 芭露ノ上ニ元帝  
外リ行キテ中ニサシテサラカ

春風芭露路光寒 春風凡カウ芭露上ノ雨路ノ 萬里蕭條涕淚沱 芭露ノ上ニ蕭條  
コトウタフテサシ

曉登萬歌翰墨林 平生又筆ヲアツカウ 掩淚聊同 今ニ送テテ萬里歌ヲウタフ

芭露吟 淚ヲオサヘテトモバニ 芭露ノ歌ヲウタフ

⑤ 席門 門倚長者車 門前長者ノ車カカルノ 百花

移映席門外 移映アセシ内ノ 却訝席門車輟多 席門ニシテ輟テ多ク

金鞍珠簇陳平門 陳平ノ門前ニ置 門外常倚君子車 門外常倚了君子車

門前ニ居ヨリ車ガ 夕ハズル 席門時引陳平車 芭露ニシテムモコソフ門ニシテ置テモ

馬席門倚 芭露ノ上ニシテ 今 日 社 盟 分 肉 處 今 日 社 盟 分 肉 處

一村分得陳平肉 一村中ニシテシナリ 醉入席分肉田 席門ノ内ニ入

社東村中夕誰知分肉人 社東ノ村中ニシテ 合フガ誰カ上手ニ肉ヲ分ルコトヲ

多漢宰相 多クハシラシク 花發席門族車也 席門ノカラ花ガ

窮巷多傳長者車 細キ小路ナレハ 多クノ長者ノ車ガ

④張良

圮橋水冷無人問

圮橋あり今水が流に  
バシリテ誰と人々無

圮橋猶有

碧流通

圮橋也今水  
ナガシ

千古誰逢黄石公

昔カラ黄石公  
人ニ逢フハカシ

黄石猶知

王佐入

黄石公  
王佐ノ人ガ

幄中籌策在誰邊

惟隆中  
ニテ

借箸為言天下事

所前ノ著ヲ科借シテ申上  
然天下ノ大事

由來黄石好知

借箸

許君帷幄中

帷幄ノ中ニテ  
三ノ上ノイヌカモ

由來黄石好知

人○嘆石公ハ元來人ヲ知ルガ事

曾無黄石公トシト

黄石不為

令我愁

黄石已知天授才

黄石ハ張良ガ天授ノ  
才トシテ

千歲何疑王者師

張良ハ王者ノ師  
誰トシテ疑

定逢天授借前

著

定逢天授借前

著

著 漢書ヲメグザレルテ

著

○司馬遷  
法テ

董石傳書定義編

董石ガ書ヲ  
何編アリシニヤ

山中何必尋黄石

山中ニ引ビテ  
黄石ハ

以上五卷

⑤三冬

三冬ニ用ユ

方朔三冬懶讀書

方朔ノ懶ニ  
三冬ニ

萬卷三冬學

殊外持見ニ  
カニ

文史萬言方朔樂

猶足用

曼倩平生推仲由

東方朔ハツチ  
路ヲシクテ

家學三冬真足用

引ビテ

三冬讀書

文史萬言稱足用

書物一  
ハヤク用

儒術三冬文史餘

下ノ海ヲ  
三冬

文史相乘

不才昔學三冬史

不才ガ昔  
三冬

文史相乘

學問ナトハ打ヤメ  
スル

⑤ 題橋

三身ハシハシ用

馬曾期題橋意

身出此方モ司馬相如因標ニ之

乘車已期昇仙橋

昇仙橋下木東流

題橋先擬相如志

過橋猶想長卿志

今日可題漢

時筆

乘車必過昇仙橋

水光春動昇仙橋

昇仙橋下無人過

長卿馬君家事

好乘駒馬過長橋

長卿馬君家事

水光春動昇仙橋

昇仙橋下無人過

好乘駒馬過長橋

賦筆凌雲勢

賦筆凌雲勢

長卿為出

④ 凌雲

賦筆凌雲勢

揮毫忽就凌雲賦

馬御賦筆執凌雲

凌雲賦

賦筆凌雲勢

揮毫忽就凌雲賦

漢代馬御賦大人

漢代馬御賦大人

漢皇殊賞凌雲賦

落筆凌雲大人

彩雲筆勢忽凌天

萬里凌雲

君自凌雲作賦才

君自凌雲作賦才

知君自

有凌雲氣拘監何當薦子虛

有凌雲氣拘監何當薦子虛

彩筆凌雲

彩筆凌雲

兔園暫

兔園暫

彩筆凌雲

彩筆凌雲

兔園暫

兔園暫

彩筆凌雲

彩筆凌雲

兔園暫

兔園暫

彩筆凌雲

彩筆凌雲

兔園暫

兔園暫

彩筆凌雲

彩筆凌雲

兔園暫

兔園暫

彩筆凌雲

彩筆凌雲

兔園暫

干上界 立仙下界 居多ク先心ヒ下不地ヒ

昔聞凌雲氣 昔人ノ

曾作梁園客 凌雲在吹臺

空說凌雲賦 更傳

凌雲氣已舒 凌雲氣

彩筆凌雲作賦才 凌雲氣賦ソモハシ

彩筆凌雲作賦才

凌雲氣賦ソモハシ

凌雲氣賦ソモハシ

凌雲氣賦ソモハシ

⑩ 文君 白頭吟 家無四壁 不知負 四方ノ壁モロカク無テシ 長卿

元是倦遊人 アキテ居人 白頭吟未就 白頭吟未 司馬

彈琴元不拙 因何不解白頭吟 相如ハモト白頭吟ヲ琴心ヲ以テ挑クト云

不是文君能唱曲 長卿何識白頭情 卓又君ガ白頭

琴心元是可難聽 只寄臨邛賣 相如ハモト白頭吟ヲ琴心ヲ以テ挑クト云

酒人 琴ヲヒク詞ノ内ニ情ヲコメテ 琴心元不

易何入白頭篇 琴心ヲ挑クレハ時ハ中ニ未ダ終カレナイト云ニ成タムハ 豈

意琴中趣更令司馬聞 ハシメハ相如ガ琴心ヲ以テ挑クト云ニ成タムハ

當壚蜀女酒 酒壚蜀ノ前ニスワリテ 終教賤妾老白頭 ハシメハ相如ガ琴心ヲ以テ挑クト云ニ成タムハ

⑪ 長門 長卿只為長門賦 獻賦

何時至明君 憶長門 又白皇后ノ御寵愛スルハ元ノ様ニ 自愧

長卿工作賦 司馬相如ノ賦ノ上テニ云 統說長門人便老黃金

無賦買春風 長門ノ事ヲ御尋方テ又御寵愛アラフト云時ハハヤ大ナシニ

長卿賦筆買春光 各人ノ相如ノ書ハ賦ニハ春光 長門一鎖袋

長門一鎖袋

長門一鎖袋

長門一鎖袋

長門一鎖袋

長門一鎖袋

回春 即前夜ガスリテ長門宮ニ引 春光不至長門宮 長門宮ハバカ

春ラレリ 長門秋静月明深 長門宮ヒツソリシテ秋サキハ別シテ物ガ

カフ 百花唯報長門春 長門宮ハ春外ニカラフカハハ 月照長門秋更

閑 然ハ物サシニ二月ガ照スコトニ 春光復賞長卿筆 相如ノ筆ノ筆

出深宮 賦ノトリウケ面白キニ依テ再ヒ深宮 誰入深宮能乞賦 賦ヲタノミヨモクゾ 珠因賦筆

傾國 美人ノコトヲ指シ 傾城傾國漢武帝 漢武帝ニハ孝夫人ノ傾城 百花

歴乱傾城色 色ニ花ノ咲クニ似テ 傾城傾國因君賞 傾城傾國ガ

一枝傾國掌中看 牡丹詩ニ有ク 可憐傾

國傾城色 傾國傾城ノ様ニ 春色婀娜傾城色 傾城モ傾ルキナリ

君家花色傾城賞 ソコトノ即庭ノ牡丹ハ別ノ 傾國入歌李

延年 李延年ハ自舞ヲ美人ナリ 曲裏已聞傾國歌 ウラウラニ傾國ノ歌モ

三嘆延年傾國歌 延年傾國歌ハ一唱三歎ナリ 一顧傾城色 一顧アリ

傾國 城下中ノ者ガケ出シテ 傾國艶花掌上開 ウラクニ國ヲモルハ花ヤウケ人

花見傾國 花カ格別テ傾國ノ 傾國夫人能弄曲 ウラシ

佳人自愛傾城色 美人モ 一冠名花

色逐情傾國人 牡丹ノ中ニ親玉ト云ヘキ様ヲ 最是西門傾國

色 西門美人ト云フ

⑤ 曳履 能言又ア申上ル臣ニ用 尚書曳履下蓬萊 昔履ヲヒキテ

君聽履聲 ソコトノ履ノ音ヲ即チアラフ 北平春雲聽



舊履

世文ノ標ニある事ニ成テ即テ止住セル

曳履漢庭虛夜月

外標(出)

勤ハフヲラヌモノ

聽履春天近

草履ノ音助

清聲曳履入南

宮

洋利ヤヨイユハ此履ニ身ニテ南宮、  
法ラレルノ南宮ノ礼部

松間日聽郎官履

モト古書部ヲ

定聞

昔り郎官履

以前ノ通り當ノ草履ノ足音ヲ聞クテララ

曳履殿門外

立止テ履ニ成何

能迎鄭氏履

イワ及テサレル

禁門已曳尚書履

ハヤ古事ニ成テ

閣聽堪聞草履聲

草履ノ聲ノ御用部至ニテモ鄭宗  
同條校列集氣ヲ紅ウノ黄國ハ此事有

横沚

歌賦少橫沚

テ漢武ノ横沚ノ歌ナクハ  
何トモ思文

還輕漢武樂橫

沚漢武ノ沚水ニ舟ヲ横シタルヲ

思區橫沚唱

漢武ノ歌ヲヨハハ  
ナク思ヒガ區ニル様 古来

徒羨橫沚賞

漢武ノ沚河ノ賞然カシ

漢主沚遊日

漢武ノ沚

時秋風沚上歌

漢武ノ沚上テウタ  
ハシレタ秋風様ガ思ヒセル

沚歌漢武大

ハ武帝ノオカワカル

君去試看沚上白雲

猶似漢時秋

コトヲミテ沚水アキ  
ニ行テアロウジロ

白雲ノ飛フモヤウヤハリ武帝ノ時ノ横様ガアルテボサラウ

曲部沚歌奏

武帝ノ歌ニ及ヒモ無イカ  
沚水ノ詩ヲ歌ニウタフ

橫流好聽秋風辭

舟ヲウカテ武帝ノ歌ヲ  
ウタフチキカレヨ

秋色還搖漢武章

白雲ノヒラクスルヲ見バトハ然レキ

錦纜樓船沚水下

立止ナヤカタ舟ハ  
何イハナク漢武

カ沚水ニウカレシタ

君不見沚杜

飛川様

漢武橫沚日

ラレル

積薪

フルキ物取サレテ新ラキ  
者石用スルツラ

汲黯新愈積

汲黯ハ政事ニ下  
ニウツモシ 官

拙使人慕積薪

ワラヌ及フテ年久シク居ユキ  
積薪ノ味ガシメハシ

古今人世積薪

是

耻世不逐汲黯之新

世ノ中而自ナクハ此積ナル世  
ニ居ルモハカシト思フ

汲黯

始識積薪多

ナルホト世ノ中積薪ノ極ナカ  
多イト心メテ合スル 請看

新積人能去 ゴラフジロ 新ヲ積ムヤウスレバ 寄語積新今古齊

事不知君 ソコモト 積新ヲ積息シテモシヤウ 却見積新能誇君

長孺係乘類積新 汲黯 元来積新ノ 還

笑故人問積新 交ガケガ此方ノ 積新ヲ多ク案ビテ 恒毅積新忌

拙官 新ノ下積日積 三ツツラ又後ヲ

畫錦 立身シテ成 錦已向故鄉還 立派十身柄ニ成テ

畫錦固出自新 又上 錦衣特媚故園花 錦衣ヲ着ラセテ

錦人 花と格別ノ 錦衣特媚故園花 錦衣ヲ着ラセテ

人間誰負畫錦榮 世ノ中ニ此上ノ 故園花發書錦

色 花モ花盛テ 錦衣 衣錦何日入卿里 イッ立身シテ 花裏衣

錦歸故鄉 花サカリノ 畫錦十日謁双親 立身シテ

花裏衣 花サカリノ 著錦衣 花サカリノ

猶山中畫錦色 故マノ 滿庭尽著故鄉錦 一

卿花丹楓深作錦 卿花

吳會今誰似買臣 吳ノ國 但到西山紅葉好錦

衣相映早歸鄉 峩峨 錦求衣

畫映帝王州 立派十 花發卿園錦色寒 花ノ

結鞅 目下ノ 結鞅應因廷尉賢 ト廷尉

以上五九 九月 早の上

ナルニ誰似尊賢張釈之 張釈之ノ様ニ似人ヲ尊 還想當時張  
釈之 ソノカミノ張釈之ノ 不知何處得王生 王生ノ様ナカドウレシ  
カテ入ルテアラフ  
憶昔釈之能結鞵 ソノカミノ張釈之ノ王生ノカミ  
ヲムスレテカミト出サレル 廷尉誰能結  
鞵人 當時廷尉及ノ家ノ内ニ誰カ  
張釈之ノ様ナクアラフ 不是王吉何結鞵 相争ガ上ニ  
フカセヨ後テヤツクノデア  
カモレバ左様ニセヌ  
一時結鞵期千載 クヒラ後ニテヤルハ一時ノイ  
クニ後ニテヤルハ千載ノ後ニテモ名カ  
十歲難逢結鞵人 是迄久クナラハイテ底ル  
張釈之ノ様ナクヒトメケリ造ラ 結鞵不知復  
有誰 カヒツムスレデヤルヤツク人ニ張  
釈之ノ後ニテカミルガ 君是今時張廷尉 アツタハ今ノ張廷  
尉トシテアル  
誰言廷尉不知賢 張釈之ノ賢人ヲシラ  
ヌトイハレヌ 為期結鞵待賢時 鞵ヲ  
待テ賢人ヲムスレテ  
結鞵終難逢 人ノ鞵ヲ法フ様ナク  
メダリアフトナラヌ 君知結鞵子 張釈之ノ外ニ人ノ鞵ヲ法ヤルナド  
ミラカ子ヲ存知テ居ル  
結鞵復能有幾人 張釈之ノ外ニ人ノ鞵ヲ法ヤルナド  
ミラカ子ヲ存知テ居ル

⑩ 郗丹

ツラマ奏多クナルヲ面白カ  
スエ思マテ居居スニ用

人生不如郗氏志 世ノ中デハ郗丹ノ志  
テガ一ゴシヨイ

曼容元是無求世 郗丹ノ元來世ノ中ニテ禄ヲ  
ムサボン心ニ無クイ

官守郗生秩 此方ノ役前ノ禄ハ郗丹ガ面白  
カ交ヨクタラる名デア

兼抱郗生欲 此方モ一ツハ郗  
丹ノ様ニ奉テ居

人却笑郗曼容 世ノ中人ハ郗丹ハ馬鹿  
者トシテワラフ

官業誰憐郗氏微 奉テ居テハカクシキ後ニテ又  
海カ突止ニ目ヲアケテクレヤウ

身耽簿籍風塵久 奉テ居テハカクシキ後ニテ又  
海カ突止ニ目ヲアケテクレヤウ

郗氏官情微 郗丹ハ奉テ居テモ内心ニ  
色イ思ハクモ有ク

慚郗曼容 年トルニテワラマ奏テ世ノ中ニ  
ナツテ居ルハ郗丹ニ對シテハカレヒ

郗子游踪不繫官 ハ自身ノ思ハクワレテ官禄  
ナドニ目ヲカケヌ

画眉已学張京兆 張敬ノ真似ヲシテ  
眉ヲ画キイテヤル

⑪ 画眉

画眉已学張京兆 張敬ノ真似ヲシテ  
眉ヲ画キイテヤル

張敬由來 張敬ノ真似ヲシテ  
眉ヲ画キイテヤル

自識神仙女不假画眉工 自カカラフ  
ヤ神仙ノ様

工画眉 張敬ノ真似ヲシテ  
眉ヲ画キイテヤル

張敬由來 張敬ノ真似ヲシテ  
眉ヲ画キイテヤル

自識神仙女不假画眉工 自カカラフ  
ヤ神仙ノ様

ノ女ニハ化粧スルニハ 閨中貞不尋常意 画眉

及ズト自慢スル 知幾許終々戀情長 今朝若箇画眉長 春情依

画眉 思カノ情合ノヤミガタキ画眉 今朝若箇画眉長 今朝若箇画眉長

テ有 神仙何事恋張氏 應識人間画眉 神仙何事恋張氏

ニ肩ヲ上テ手ニカキテ者ハ張氏 二肩ヲ上テ手ニカキテ者ハ張氏

石羊 萬頭白石化羊去 寄言吾堂赤松子

向ノ赤 金華山下石羊馳 金華山下石羊馳 金華山下石羊馳

少ウ 牧童已在金華山 還逢赤松子天路坐相邀

羊隨杖起 數カキリモ無イ石羊カ行クヤキク 驅羊何日入金華

松子ニ逢フカレハ此方ニ来ヨトテアル 呼ビ入ラシムカ辰チカラ天ニ升ル様ガ 見立ニシタルミテ可カク

山 石ニ声ヲカケルニ羊ニ成テ 鞭石黃初平 執鞭時驅黃

初平 初平ハ折ニ鞭ヲアゲテ石 怪石欲成羊 石ノ模様モ不思漢ニテドウカ

山色又回頭 金華山ノ様ヲバ 身是金華山下住 僅逢昔日此羊仙

昔シ奥州ニ行ク人ヲ送ルハ〇ヲモトク 金華山ノ様ニ住ル人ニヒキイトモタラ 仙羊化石路成羣

レハ羊テモアツク色ノ怪石ト 迷蹤漸寤黃初起 夢初起ガ羊ノ初平ヲサセシテ羊ヤアリヤラ

成テ踏一パイニ有ル 迷蹤漸寤黃初起 ヤク浮世ノワラヌ又フヲ黎明ニ同様に物報

ニ行テ世上ノ面白カラ ヌフヲ覚ヘカニテハ 五里浣濛漲楷霧 不妨作霧

作霧 仙境ノモヤウ又ト 五里浣濛漲楷霧 不妨作霧

避人間 霧ヲオコシテ世上ノウルサキヲ 可歎公超能作霧 公超ガ霧ヲ起シシモト

ナゲカハ 霧深五里公超市 五里ホドノ向霧ニテ一向ニハ子ガ 行々入霧華陰山

行サキ霧深ヲウケテ次第ニ 如何張楷隱華陰 張楷ガ華陰山ニ引込タシ 霧深不見

華陰山ニ入ル 如何張楷隱華陰 トハドウテアル

公超市

雨後かほくテ公超市  
モコハヌ

山中作露擬張楷

山中ニテ作露ヲオコシテ  
張楷ノ真似ラスル 行矣

稍迷五里霧

雨後かほくテ人ガ  
道ヲミミヨフ

華陰晝暗公超霧

華陰山ノ昼モ雨ニ  
リラフ

故人五里能入霧

友ガケル霧ヲウケテ  
サワサトユカレル

非擬弘農山下人

公超ノ真似ラスル  
ノデハ無イ

避人千歲猶為霧

公超ヨリ千歳ノ後ナレバ世ノ中ノ人ヲ  
ヨケテ見付ラレヌヤウ山中ニ引込

入山遇客已迷霧

山ニ入ルト通行ノモノモ霧ニ  
道ヲフミヨフ

人疑五里霧

五里ノ霧ト人ガ不審  
スルヤウデア

以上五絶  
公超ノ真似ラスル

范氏

友タケノ死ニ  
用

不道山川千里路素車已入夢中来

道ノ遠イモ乃  
ハ友ノ夢ヲ

范張文不淺

范氏張劭ノ義ノ  
向カハイカモフカ

素車無端駕素車

吟味上

為報我曹范巨卿

シラセヤル友タケノ  
范巨卿ニ

請看昔日張元伯夢裏

分明迎素車

コラフシロ昔レ張元伯ノ死テモ友タケヲ思フニ  
夢ニアリト知ラセテ范氏カ素車ニ命テ予レシ行ル  
ノ素車ノ迎タ極ナル物ニ迎テ云

已告人間范信士

コノ世ニ居ル范巨卿ノ  
范氏信士ノ人ニ信士云

寄語人間范氏子

コノ世ノ范氏ニ  
イフテヤル

素車無那阻山河

素車ニ命テクヤミ行テ度モ  
何カ山川ヲヘダテ、范巨卿ノ心ヲ又

白馬已維廣柳車

廣柳

車ハ棺ヲセリ車ノ白馬テ  
ハヤ廣柳車ヲヒカセン

范式由来知友道

范巨卿ノ友タケニツキテ  
道ヲえ来心得テ居ル

遠送君

家白馬車

遠方ナカラフモトノ送送  
ニ供ラヌ

入夢漢時范友道

范巨卿ノ夢ニ  
入ル

素車已唱白楊歌

今ハハヤ出拔テ空ニシク白楊歌ヲ唱ル  
○白楊歌ハ白楊多世風ヲ死スル時

廣柳車中夢下傳

白馬聲

夢ニシテカ有ラヒヤリ  
名ヲ尋送ノゆハツキ妙

寧違白馬巨卿心

范巨卿ノ心イキモ、  
ナカヒレセシ 我亦當

羊范巨卿策馬欲行病不行

此方モ范巨卿ノ行クカデキヤ  
ト思ハレ何トス快テ行クカデキヤ

邊韶

今日夢勞邊孝先

シキリニ假寐シテ  
夢クシム 腹書萬卷孝

先賦

腹中ニ書物ハ山ニハ  
自然賦ヲ催ス

夢裏周公可問君

夢ニ周公ト出合フ情合  
ソコモトニ問度ト思フ

可嘆周公

夢裏哀勞

周シラ夢アミルホト色ニ心クハリ  
スルモ嘆息ノコト

千秋已事五經笥

後世マテニ名ヲ後ヲトテ  
腹中ニ五經ヲ保シタルハ

試使孝先思五經

思孝先ノ五經ヲ  
考サセテラハ

邊孝先生五經腹

邊孝先生ノ腹中  
ニ五經カハイ

君是當年邊孝先

ソコモトト昔ノ邊

林有邊詔常好眠

林ハ邊孝先

スキナカガ 讀書十歲孝先眠

十年モ字向シテ腹中 夢覺只知腹便

腹ハ目

⑬ 頌鱣

儒者ノ能ハ仕ル

門下志推頌鱣人

才子内ニテモイハレモ先生ハ

頌鱣元不先生意

三身ノ規模ヲヨロミテ下中ス

頌鱣千載可難逢

オハル様ノハメタ 天意啣頌日

啣ハ啣ノ誤ニハ

位著三鱣衣

ニ出アハサレヌコト 天心不假頌鱣筆

天トウノ思ハミテ即知ラセアルノ

閔西孔子頌鱣

伯頌鱣門下客全疎

才子宗モ今ハスキト少ナク成リ

講堂再見三

伯頌鱣門下客全疎

昔日頌鱣楊伯起

楊相アリタル様

伯頌鱣門下客全疎

講堂再見三

鱣魚

誦堂ガデキテ又昔シノ様ニ鱣魚

頌鱣門下北休祥

門下ノ人ガ

相出居テ陪相ナリ 鱣魚更落講堂前

鱣魚ガ又講堂ノ

⑭ 縫腋

腋ニ指スルノ階夫ヲ

幾回書札待潛夫

度ハ手低クコサレテ

先生論

書生ノ服ヲ着テ

誰謂不如縫腋

誰謂不如縫腋

誰ガイフゾ

雁門太守如相問

年縫腋衣

大守ガ三ツラシクバサガ

雁門太守如相問

何須今日著潛夫

當時ノ世中テハ

潛夫何懶著縫

腋

更言縫腋一先生

肯容滄海著

潛夫

阿ラスモ元ガ典イ

時間有餘論未恠老夫

阿ラスモ元ガ典イ

時間有餘論未恠老夫

潛夫

フレテハ世ナリヲ瀟スルハレモハ例ノ此方隱  
遁者ノ一ニハ恬ムモ無ク

青山欲老潜夫論

青山ニ引レテ潜夫  
論ヲモ書テ一生ヲ

送ラト懸知文力健聊復擬潜夫

察スル所文章ノ力ノ達者ナルヲ一ニ  
ラカテ潜夫論ノ真似ガテキルテ

覽潜夫

此方隱遁者ナリトモ

明詩欲著潜夫論

詩ノ時ノ際〇太平  
ノ代ニ居テ潜夫論

自著潜夫論

自著潜夫論  
壯心論未盡明日問潜夫

病未只任潜夫老著論無心寄

日邊

氣分ガナシカ仕アルニ海ハ中ニツキ又後日  
潜夫ニ逢フテ臨ラキカフ

映雪

雪向出積スルヲ用

滿庭飛雪讀書前

書ヲ読テ居レハ庭ノ  
雪ニカフル

映雪書窓灯色新

雪アカリ窓ニテ書ヲ讀ム  
ニカト灯ノ光リ極ナ

雪裏閑書想孫

氏

窓明孫氏ニ庭前雪

窓ハ雪アカリテアカル  
孫康ノ窓ノ庭ノヤウテ

庭下雪晴宜讀書

庭サキニツモリん雪ガ心ウタリ  
タレバ書物ヲ流シニコトニ奇妙

強擬孫康窺

積雪

雪ノ掃子ヲミル

飛雪先憐孫氏貧

雪ノフルヲミレバ  
孫康ノ家ノ貧窮

孫康昔日映書雪

雪トシカミ孫康カ書物ヲ  
ウツシミタルニ奇

雪後窺朱燈

下色

雪ノアゲクニ窓ニウツンアカリ  
ハ灯トドウカトセシケイテミル

閑帙霏孫氏色

書物ヲヒラキアセバ  
サツサト雪ガフルガ全

積雪近憐書帙色

ツモリタル雪ガ書帙ヲ  
コトニ白クモシル

歲晚雪深

何所見半窓半讀半牀書

冬深テコトニ雪ガ多クニ何ガミドコトモハ  
牀半カニ積テアル書物ヲ窓ヨリ半カニ流テミラタ

聚螢

夜螢流得入書窓

ホタルガ書窓ハ  
イリテ来タ

照半窓

毎夜大ツウチホタルガ  
窓ノ前ニ飛テ窓モ半カアル

螢飛讀書窓

書物ヲ見ん窓  
ヲホタルカマラ

諸生武子多夜堂求未允

諸生ハ年流同秋ニ多ク  
ホタルガイラフアツルハヨクテアル

點々

隨風螢火色故流武子讀書窓

ホタルガイラフボクハ心アリゲニ  
半流ノ窓サキニアツル

宮夜々似星影點々照書帙

ホタルガイラフボクハ心アリゲニ  
半流ノ窓サキニアツル





一曰石門行客... 此處文字較為模糊，但可見其為行旅記述。

一曰... 此處文字亦較為模糊，似為另一段行旅記述。

以下十二月六日上... 此處文字較為模糊，似為日期或地點的標記。

七月十二日早發... 此處文字較為模糊，似為日期及行程的標記。

至愈甚愈暗道路成川... 此處文字較為模糊，似為對行路環境的描述。

將行展墓江流如惜別者... 此處文字較為模糊，似為對離別或行程的感嘆。

何意勝區常為加者... 此處文字較為模糊，似為對某地或某事的感嘆。

有行商者有居高者則揮汗... 此處文字較為模糊，似為對行商或高處的描述。

一西可不... 此處文字較為模糊，似為對方位或行程的描述。

以償勞也... 此處文字較為模糊，似為對勞作的感嘆。

○家刻... 此處文字較為模糊，似為對家刻或字體的討論。

是木... 此處文字較為模糊，似為對木質或字體的討論。

頁... 此處文字較為模糊，似為對字體或書法的討論。

字... 此處文字較為模糊，似為對字體或書法的討論。

機ヲ果

是言文ニテハ

繡進ヲ

玉判

姑

姑ヲ

古茂

右ノ外大篆古文等ノ形ノ類ノ到ルニ至リテ後

又重書ヲ体ハシテ

玉

玉字ヲ

重

重

山

山ヲ

張

張

山

山

山

山

山

山

山

山

山

古易所外編卷三下 上系辭是故剝柔相摩八卦相盪段注

張氏次仲曰是故二字不是文章家接角鬪筍套語此与上云夫字語  
脈相承正描露易簡二字精神 盖氣機到此過捺不住自然相盪  
相盪自然為當為寔自然成男成女若說聖人作易便是有為之法便

不是易簡

過彭母詩會後曰激發使止也亦雅止也郭注曰今以匹相止為過  
捺約令乃易切字林捺指也屬韻手按也

張氏次仲曰

是故二字云々

到此過捺不住

三知と文章

今乃今以匹相止為過

解

二 是故二字云々ヨリ 二字精神是故ノ字ヲ解シ候 盖氣機到此ヨリ下ハ易本文ノ意  
ヲ解シ候

三 張氏ノ存意ニ此ノ是故ノ二字ハ一通リ文章書キノ取扱候上ヲ承下ヲ生ジ候用ヒ

法ノ是故ニハ無之此処ハ上文ノ乾坤定矣貴賤位矣剝柔斷矣吉凶生矣变化見矣  
ノ五ノ文字ト意味連属シテ乾坤ノ本體ハ易簡ノ主意ヲ書出シタレト申ス

盖氣機到此過捺不住云々乾坤考賤云々トスラト乾坤ノハタラキヲ云ヒ来リ  
カヤウニナリタレハツ云ヒカヤウオサハトメヤウトモ止ルルノナリ自然ニ摩盪ニ當

寔ニモ男ノ女モ出来ルト申ス義  
二 接角鬪筍ハヒクナリト上ト下ト承継シ候義 俗語ト相久ハ候語脈ハ言語ノ本ヲ描

畫ハエカキ候一魚ニカキタルヤウニセウウシニ致シ先様ト變ハ候ニ候過捺ナリトオ  
サハトメ様或ハ即座候様年々陰陽氣ノツト進ムツミ申候

長爪未領担何愜 輒仍奈何俗事 此ハ大ノ所本支ヲ錯綜シテ証シ申候





○ 貽厥編

八月廿九日 本山海王寺此書の巻頭に「海王寺」の語あり

所収書  
世  
考  
十

此書ハ序中より「此書は...」の語あり... 貽厥の巻頭より「海王寺」の語あり

序

予は書と云ふに序あり... 海王寺の語あり... 又別に「海王寺」ともあり

先きの命書より... 海王寺の語あり... 又別に「海王寺」ともあり

海王寺  
口公何とん

此書ハ二つあり... 海王寺の語あり... 又別に「海王寺」ともあり

伊州紙 ○ 海王寺

①... 海王寺の語あり... 又別に「海王寺」ともあり





○御座假得共是又押出シテハイカト奉存候

○九月念四御座出ル事

後世ニ至リ是ト思ヒアツリ候様ナル意味ノ標題ニ有間敷ハト御座

獲心編

詩我思古人實獲我心 是ハ後世ノ人ヨリ申候詞

御座候

始信録

後世ニ至リ何歟、事新始ニテマカ言テ信仰スヘシ  
ト申義、大真趣ヲテ御座有之マキ、不也

○九月念八

たゞ能得言ハシと無リ申す時丈夫其の志ひをんりて見ん時其志  
まをさるる法歟の事ありまをさるるの如く申んまをさるるんと  
志まをさるるの事ありまをさるるの如く申んまをさるるんと  
志まをさるるの事ありまをさるるの如く申んまをさるるんと  
志まをさるるの事ありまをさるるの如く申んまをさるるんと

○所引は十月三日迄也

先子 社戒

嗚呼斯同社ニ之我有言戒請言之夫道之宗高繫  
乎世之汚隆徳之成廢由乎教之善不維學異門維門  
異風故事師古業貴務所教有五事詢九思於朝夕  
一所謂有五福見長生於愛忠思事翻之成美知狂夫於青  
蠅飲食忠思因臨祭之納約言語必慎願遠戒於金人





是以親者益親疏者益疏衆議亦益熾夫君之視臣無如是  
適莫但以其性褊惡是人故尔固非如衆所疑者然其所親  
偏而如威權獨專則衆之疑不可家解戶說則其議之不已不  
亦宜乎然而望其無議猶懸牛首而求買馬肉

衆言

大夫諸臣君親昵之則勸近狎則慢時或咨事問志有隱焉  
者有盡焉者隱焉者慮於同僚也盡焉者忠於君也若庸  
主不能制馭其臣方是時有一阻所咨問者若五人若十人其志同則  
可各異其志則取捨自殊其不見取者悵快相疑繫狎之甚  
則至問取捨何如何以不取也人有常言曰善則取之不善則捨  
之捨而怨討可從不知言者之志期於見取一取一捨衆皆  
悅服者幾希矣君之柔懦憚其有怨色懲美吹竇也至於賞  
罰黜陟必先使其知而後行焉譬猶如關門固集第斬不可行是制於其臣  
者也

轉移

言者期於見取其志皆以為公家之利故不得其言則怫鬱  
不已故舊之會憤慷慨之餘不得不時或洩之洩者慷慨聽者亦  
慷慨曰直也言也雖然世載言移言也世行隆如子之言可稱於曩時  
而不可稱於今日使子生於曩時則所謂邦之司直者非邪請嘗

論之古今得失孰知其極古之所謂今者今謂之古今之所謂今者  
者在後亦謂之古然則古不必獨是而今不必獨非假使後人不得  
其言慰之者亦然曰其言可稱於曩時而不可稱於今日使子生  
於曩時則必能遭遇於是今後亦古轉移之無已如是邪

暫假

有一有司僚屬不服雖無大不可微有惡聲而權大夫悅之  
將大用之執事員有劾彼藉當補以僚佐不服微有惡聲  
諸大夫不欲為之權大夫乃曰諸大夫之議固可然彼藉當陟  
且有惡聲無迹之可斥試可乃已不可而黜之未為晚也則諸

大夫亦不能復爭焉暫則假久則真名號一定不可復動也

知言

有不善於諸大夫者坐事免黜則曰予不悅於大夫執事大夫執  
事要予骨鯁強道而害於己也是以為所構陷何其毒也某子有  
是失某子有某事我非不知鳴之而白予實焉白之則坐者極衆  
是以非為也嗚呼何言之儻也聖人且有過況今人乎為教  
其毛舉細瑣則誰能無過小而顯何則後之且其言曰凡有言  
爭執事者稽留不得上達而為此白則達邪雖言之激乎儻  
亦甚矣

儻言 老京二千四百是也  
音恠又于例反 儻也謂恠不信之言也



孟子居心下

士未可以言而  
言是曰妄也  
不可言而  
言是曰誑也  
言而  
不可言  
是曰誑也  
言而  
不可言  
是曰誑也  
言而  
不可言  
是曰誑也

○七月廿三日

長キ文句ノ内尚以テ先後ノ別ヲ辨スヘシト云々

いづく字取アセリ

コレハ初ニ字ノ上下ヨリテ意ノ先後アルヲ論シ次ニ句ノ中ニ意ノ先後アルヲ論シ其ノ  
長キ文句ノ内尚以テ先後ノ別ヲ辨スヘシト云々

致其知教知在格物 又物至而知之 而后意誠 而后心正 而后身修 而后家齊 而后國治 而后天下平

又句ニ就テ申シ心論語 衛靈公 直哉史魚 邦有道如矢 邦無道如矢 君子哉蘧伯玉 邦有道則仕 邦無道則可卷而懷之 孟子居心下

又論語 子路曰 不降其志 不辱其身 伯夷也 有下惠也 有柳下惠也 少連 降志辱身 中 伯也 中 伯也 中 伯也

也 困而學之 又其以也 困而不學 民斯為下矣 右初以先

○十月八日

○十月八日



嵩而呻呼於國者侍也而猶且曰有民人有社稷是故要夫  
信者自吾非聖人也篤信好學成德於己而後取之左右逢  
其原庶可無大<sup>三</sup>庭也 此段上承之學問ノ無クテ是又云

サテ其政事ノ根元ナル修己執古トテハ學問ニテ成ルハテキズソレニ皆何事  
モ學問ヲヤコト出格ヤスル其證據ニ論語ニ十人學道則易使トテカルノ小  
人ニテモ學問スレバ上ニ事ニ取テ道ヲ知ユヘ上ヨリ使フニ使ヒ易ト孔子ノ仰ル也  
コトアリ小人ニテ其通ナルニ況卿大夫士ノ身外ニヨリテ天子ノ御者更去天  
下ヲ扱ヒ諸侯ノ御者士ノ國ヲ扱フ役ニテ天職ニ用スル者ナド別ニテ學問セヨ  
ナラズ<sup>又其上ノ</sup>卿士ニテ七千里四方乃至五千里四方ノ小國ニテモ<sup>其</sup>國ニ君トシテ諸侯ト  
モイハレ方ニ猶更學問ナクハ叶ハズ事ナリ 苟其不學以下學問ノ人ナ  
云カリソレモ學問無キ人ハ橋面トテ壁ニ向テ居ル如ク何内外ノ事何一ツ耳ノ入  
ナキニ今日色ニ滯ル事柄ヲ扱フニ必ク分ニ骨折ルノミナシ只骨折ルニシテ

モ多ク終ニ位ニモ土地モハレ國中ヲ呻呼アルカ上ニ事ニ任ナラズ然レニ  
コト多クノ領内ノ民ヲモ扱ヒツケテバナラズ又社稷メ國家ノ式例ヲモ扱ヒツケテ  
ナラズ又河モ書物ヲ流バヤリガ學問テム無トハス口ヲキク<sup>者</sup>アハユレ孔子モ口キクハ  
要ニモヒカハナリ 自吾由聖人也以下ノ字不字ヲ忘ラ云畢竟銘ニ要  
ニテ無キ事ニハ心ツコヨリ學問ヲ好ミ吾徳ヲ成就シテ如何ノ事ニ出テモ其  
取極道ノ本源ニ叶フ格ニナリトス格別ノ目アテヤガヒハハルニシ

夫政有少大俗有古今道與時汗隆或曰今迥今已今<sup>中</sup>而全  
之道必及其身沾<sup>漢</sup>我<sup>漢</sup>身見其不知量也而又為今無  
差而一切從事于古則古則陸行可舟車水行不事<sup>舟車</sup>事  
固有不<sup>舟車</sup>行也乃執一廢百<sup>舟車</sup>所謂刻舟膠柱者不免於<sup>舟車</sup>疑  
氷矣故執古御今是為得之 此段政事ニ時セテ要化アルキヲ云





下國家何為之難矣言<sup>（漢）</sup>之得無初乎

世設世同ノ口先キノ

論ニ長ス凡者シ云 當時世ノ中ニ經濟ニト唱テ居ル者如何ハカリヤ教ヲ  
知ラヌイワレモ天下國家<sup>（漢）</sup>ト口クモニテ居ル者其咄ヲ聞ク<sup>（漢）</sup>庶幾<sup>（漢）</sup>矣ト  
殊ノ外サセテ<sup>（漢）</sup>一ニテ終日コラキ<sup>（漢）</sup>ウメテ<sup>（漢）</sup>嘔モカレモセヌ<sup>（漢）</sup>マフトニ<sup>（漢）</sup>傷者<sup>（漢）</sup>無人ノ  
体テアル彼ノ政事ニ切者ナル<sup>（漢）</sup>冉有季路モ右ノ人ニ出達スルハ<sup>（漢）</sup>行<sup>（漢）</sup>唯<sup>（漢）</sup>同<sup>（漢）</sup>ハ  
カリ<sup>（漢）</sup>先<sup>（漢）</sup>ラシテ<sup>（漢）</sup>屏<sup>（漢）</sup>息<sup>（漢）</sup>シテ<sup>（漢）</sup>路<sup>（漢）</sup>ニ<sup>（漢）</sup>付<sup>（漢）</sup>ク<sup>（漢）</sup>位<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>アラフ<sup>（漢）</sup>中<sup>（漢）</sup>ニ<sup>（漢）</sup>其<sup>（漢）</sup>者<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>枕<sup>（漢）</sup>俾<sup>（漢）</sup>シテ<sup>（漢）</sup>政<sup>（漢）</sup>事<sup>（漢）</sup>ノ  
咄<sup>（漢）</sup>シ<sup>（漢）</sup>ス<sup>（漢）</sup>コト<sup>（漢）</sup>思<sup>（漢）</sup>ハ<sup>（漢）</sup>又<sup>（漢）</sup>其<sup>（漢）</sup>者<sup>（漢）</sup>述<sup>（漢）</sup>ノ<sup>（漢）</sup>書<sup>（漢）</sup>ヲ<sup>（漢）</sup>流<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>見<sup>（漢）</sup>シ<sup>（漢）</sup>バ<sup>（漢）</sup>文<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>ア<sup>（漢）</sup>ラ<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>イ<sup>（漢）</sup>カ<sup>（漢）</sup>シ<sup>（漢）</sup>モ  
辨<sup>（漢）</sup>シ<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>立<sup>（漢）</sup>止<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>事<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>アル<sup>（漢）</sup>然<sup>（漢）</sup>レ<sup>（漢）</sup>モ<sup>（漢）</sup>其<sup>（漢）</sup>者<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>一<sup>（漢）</sup>郡<sup>（漢）</sup>一<sup>（漢）</sup>村<sup>（漢）</sup>ノ<sup>（漢）</sup>奉<sup>（漢）</sup>行<sup>（漢）</sup>モ<sup>（漢）</sup>セ<sup>（漢）</sup>ヌ<sup>（漢）</sup>者<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>口<sup>（漢）</sup>ク<sup>（漢）</sup>シ<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>  
云<sup>（漢）</sup>ハ<sup>（漢）</sup>カ<sup>（漢）</sup>リ<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>此<sup>（漢）</sup>ヲ<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>メ<sup>（漢）</sup>ハ<sup>（漢）</sup>ア<sup>（漢）</sup>ヌ<sup>（漢）</sup>コ<sup>（漢）</sup>ガ<sup>（漢）</sup>ア<sup>（漢）</sup>カ<sup>（漢）</sup>リ<sup>（漢）</sup>ア<sup>（漢）</sup>ラ<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>コ<sup>（漢）</sup>ニ<sup>（漢）</sup>都<sup>（漢）</sup>々<sup>（漢）</sup>ヲ<sup>（漢）</sup>レ<sup>（漢）</sup>ハ<sup>（漢）</sup>此<sup>（漢）</sup>ニ<sup>（漢）</sup>不<sup>（漢）</sup>知<sup>（漢）</sup>者<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>ル<sup>（漢）</sup>也  
コ<sup>（漢）</sup>ハ<sup>（漢）</sup>合<sup>（漢）</sup>々<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>口<sup>（漢）</sup>先<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>イ<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>コ<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>故<sup>（漢）</sup>我<sup>（漢）</sup>徒<sup>（漢）</sup>ハ<sup>（漢）</sup>イ<sup>（漢）</sup>ナ<sup>（漢）</sup>ラ<sup>（漢）</sup>バ<sup>（漢）</sup>カ<sup>（漢）</sup>リ<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>扱<sup>（漢）</sup>口<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>ハ<sup>（漢）</sup>何<sup>（漢）</sup>ニ<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>モ  
イ<sup>（漢）</sup>ハ<sup>（漢）</sup>シ<sup>（漢）</sup>ヌ<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>無<sup>（漢）</sup>ス<sup>（漢）</sup>ム<sup>（漢）</sup>シ<sup>（漢）</sup>ヤ<sup>（漢）</sup>ウ<sup>（漢）</sup>ヤ<sup>（漢）</sup>ク<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>ス<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>何<sup>（漢）</sup>カ<sup>（漢）</sup>而<sup>（漢）</sup>白<sup>（漢）</sup>サ<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>用  
ニ<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>見<sup>（漢）</sup>レ<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>ハ<sup>（漢）</sup>ユ<sup>（漢）</sup>カ<sup>（漢）</sup>又<sup>（漢）</sup>シ<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>見<sup>（漢）</sup>レ<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>ハ<sup>（漢）</sup>中<sup>（漢）</sup>ニ<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>天下<sup>（漢）</sup>國家<sup>（漢）</sup>ガ<sup>（漢）</sup>ドウ<sup>（漢）</sup>ナル<sup>（漢）</sup>物  
テ<sup>（漢）</sup>アラフ<sup>（漢）</sup>ノ<sup>（漢）</sup>全<sup>（漢）</sup>体<sup>（漢）</sup>天下<sup>（漢）</sup>國家<sup>（漢）</sup>ノ<sup>（漢）</sup>治<sup>（漢）</sup>メ<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>物<sup>（漢）</sup>ハ<sup>（漢）</sup>極<sup>（漢）</sup>カ<sup>（漢）</sup>シ<sup>（漢）</sup>キ<sup>（漢）</sup>物<sup>（漢）</sup>ニ<sup>（漢）</sup>ハ<sup>（漢）</sup>口<sup>（漢）</sup>ク<sup>（漢）</sup>シ<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>ト<sup>（漢）</sup>シ<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>  
ハ<sup>（漢）</sup>ユ<sup>（漢）</sup>カ<sup>（漢）</sup>又<sup>（漢）</sup>云<sup>（漢）</sup>フ<sup>（漢）</sup>テ<sup>（漢）</sup>アル

尼崎<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>學<sup>（漢）</sup>實<sup>（漢）</sup>期<sup>（漢）</sup>於<sup>（漢）</sup>德<sup>（漢）</sup>与<sup>（漢）</sup>政<sup>（漢）</sup>思<sup>（漢）</sup>茲<sup>（漢）</sup>在<sup>（漢）</sup>茲<sup>（漢）</sup>出<sup>（漢）</sup>也<sup>（漢）</sup>在<sup>（漢）</sup>茲<sup>（漢）</sup>其<sup>（漢）</sup>者<sup>（漢）</sup>  
不<sup>（漢）</sup>通<sup>（漢）</sup>則<sup>（漢）</sup>靜<sup>（漢）</sup>然<sup>（漢）</sup>思<sup>（漢）</sup>道<sup>（漢）</sup>幸<sup>（漢）</sup>而<sup>（漢）</sup>得<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>書<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>記<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>也<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>中<sup>（漢）</sup>年<sup>（漢）</sup>此<sup>（漢）</sup>書<sup>（漢）</sup>也  
侯<sup>（漢）</sup>宣<sup>（漢）</sup>不<sup>（漢）</sup>謂<sup>（漢）</sup>為<sup>（漢）</sup>政<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>德<sup>（漢）</sup>則<sup>（漢）</sup>孔<sup>（漢）</sup>門<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>教<sup>（漢）</sup>具<sup>（漢）</sup>焉<sup>（漢）</sup>書<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>用<sup>（漢）</sup>文<sup>（漢）</sup>為<sup>（漢）</sup>貴<sup>（漢）</sup>則<sup>（漢）</sup>  
諸<sup>（漢）</sup>子<sup>（漢）</sup>百<sup>（漢）</sup>家<sup>（漢）</sup>在<sup>（漢）</sup>焉<sup>（漢）</sup>又<sup>（漢）</sup>何<sup>（漢）</sup>當<sup>（漢）</sup>焉<sup>（漢）</sup>と<sup>（漢）</sup>唯<sup>（漢）</sup>邦<sup>（漢）</sup>殊<sup>（漢）</sup>俗<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>異<sup>（漢）</sup>者<sup>（漢）</sup>今<sup>（漢）</sup>政<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>不<sup>（漢）</sup>  
同<sup>（漢）</sup>可<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>寬<sup>（漢）</sup>可<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>猛<sup>（漢）</sup>可<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>示<sup>（漢）</sup>儉<sup>（漢）</sup>可<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>示<sup>（漢）</sup>豐<sup>（漢）</sup>有<sup>（漢）</sup>所<sup>（漢）</sup>先<sup>（漢）</sup>有<sup>（漢）</sup>所<sup>（漢）</sup>後<sup>（漢）</sup>不<sup>（漢）</sup>識<sup>（漢）</sup>  
知<sup>（漢）</sup>順<sup>（漢）</sup>乎<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>則<sup>（漢）</sup>

此以下 世設世同ノ口先キノ

尼崎<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>學<sup>（漢）</sup>實<sup>（漢）</sup>期<sup>（漢）</sup>於<sup>（漢）</sup>德<sup>（漢）</sup>与<sup>（漢）</sup>政<sup>（漢）</sup>思<sup>（漢）</sup>茲<sup>（漢）</sup>在<sup>（漢）</sup>茲<sup>（漢）</sup>出<sup>（漢）</sup>也<sup>（漢）</sup>在<sup>（漢）</sup>茲<sup>（漢）</sup>其<sup>（漢）</sup>者<sup>（漢）</sup>  
不<sup>（漢）</sup>通<sup>（漢）</sup>則<sup>（漢）</sup>靜<sup>（漢）</sup>然<sup>（漢）</sup>思<sup>（漢）</sup>道<sup>（漢）</sup>幸<sup>（漢）</sup>而<sup>（漢）</sup>得<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>書<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>記<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>也<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>中<sup>（漢）</sup>年<sup>（漢）</sup>此<sup>（漢）</sup>書<sup>（漢）</sup>也  
侯<sup>（漢）</sup>宣<sup>（漢）</sup>不<sup>（漢）</sup>謂<sup>（漢）</sup>為<sup>（漢）</sup>政<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>德<sup>（漢）</sup>則<sup>（漢）</sup>孔<sup>（漢）</sup>門<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>教<sup>（漢）</sup>具<sup>（漢）</sup>焉<sup>（漢）</sup>書<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>用<sup>（漢）</sup>文<sup>（漢）</sup>為<sup>（漢）</sup>貴<sup>（漢）</sup>則<sup>（漢）</sup>  
諸<sup>（漢）</sup>子<sup>（漢）</sup>百<sup>（漢）</sup>家<sup>（漢）</sup>在<sup>（漢）</sup>焉<sup>（漢）</sup>又<sup>（漢）</sup>何<sup>（漢）</sup>當<sup>（漢）</sup>焉<sup>（漢）</sup>と<sup>（漢）</sup>唯<sup>（漢）</sup>邦<sup>（漢）</sup>殊<sup>（漢）</sup>俗<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>異<sup>（漢）</sup>者<sup>（漢）</sup>今<sup>（漢）</sup>政<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>不<sup>（漢）</sup>  
同<sup>（漢）</sup>可<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>寬<sup>（漢）</sup>可<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>猛<sup>（漢）</sup>可<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>示<sup>（漢）</sup>儉<sup>（漢）</sup>可<sup>（漢）</sup>以<sup>（漢）</sup>示<sup>（漢）</sup>豐<sup>（漢）</sup>有<sup>（漢）</sup>所<sup>（漢）</sup>先<sup>（漢）</sup>有<sup>（漢）</sup>所<sup>（漢）</sup>後<sup>（漢）</sup>不<sup>（漢）</sup>識<sup>（漢）</sup>  
知<sup>（漢）</sup>順<sup>（漢）</sup>乎<sup>（漢）</sup>之<sup>（漢）</sup>則<sup>（漢）</sup>

テアル 此書 印認遊ハサルモ侯ノ思右ニテハ政事ヲスルニ徳 徳 糴ナルハ孔門  
ノ教一カラト也皆コレヲ不足ト云イ又書ヲ著スルニ文章ノウツクシキハ  
等ツ見セヤト士フハ孟子著スルメ満チる家ノ書物ガアリテ 其止ニ光  
ハトテモテキ又但シ唐キ日存ト土 此 稽リ日存ノ中ニテ他國ト自國トハ又凡後モ  
替ル其等リん凡俗ノ中モ昔ト今トノ替リモんたスレハ政事ノ仁形モ一様ニハ  
行ズ寛テ好ムル也アリ極モまじ又所アリ一節侯カ物ヤウリ大茂ラシカ  
心モアル也又ヤク先ラ取ル処ジツト和テアトニスル也モアル也只月日我意  
ヲ用スニ其時ニ候ヒテ聖人ノ旨マカスガ能イト思ハスノデゴサヲ

噫侯由其俗而考其情智在古而謀于今徳ニ成テ内而  
政亦治于外ト夫引繩古今圓冠方履造衣白布以文為衣  
且若天 衣冠 淵之異多耳亦唯 此 造衣履造衣白布以文為衣  
侯志

多夫 侯志

夫段君侯ヲ印也又由上テ侯也

ア、侯ハ其風俗ヨリ下情ヲ察シ玉ヒ古昔ノ法 此 徳ヲ今ト謀リクニ入玉ヒ  
印月々ノ印徳印身ニ成就シ行キ印政事モ此ル事ニハ彼世間ノ 此 古ト云  
テハナラヌ今デ無クテ成ラヌトシキリラタテ 此 國方履ニ造極ノ事  
着シ先白布書生ガ文章ヲ書ケラシテ自慢類スルハ天地 此 造極ノ  
相違デアラセラル、下ト云モ夕外テ 此 印也 此 印也 此 印也  
ノ印心得ニ遊ハサル、処ガ侯ノ思ハデゴサヲ

引繩トシ繩ヲ引ルモシキリラシテ内ヨリ出ス外ヨリ入レトシキル也圓冠  
方履 此 造衣履造衣白布

改

水載舟不厚不堪舟行水不火則漂同心同徳惟足示此



遠天地好陽よりフモオカエハ寛三仕候スルヨリイッ申候ノ方ニシト子彦カ子  
右取ニ致ハ先心 君ノ思ハクハ及致シテハ實此所書物案先ハ起ヨリテ  
キルニ候 △此所書物案先ハ起ヨリテ  
夫ハ五ノ六ノ中ノ一ニ候

公親封以秉恒有慨於斯是以及平人和舊律張新云  
君公卿家考以秉夕(又此寛恒強弱)ハ此所係候迄并シ先ニ所書  
平等ニ流人モ一和致シ是臣ノ風トバト替リ先ト承リ候

以臣觀之經生為宜法高矣豈以能履實地而然比斯  
書有愧哉

私ノ自ヨリ見候將ハ世上ノ儒者口先ニテ經濟ヲ申シ候ハ皆シテノ事ニ  
候イッレモ自身政事ヲ扱ヒ見テ申スノテゴザラヌシテ見レハ此所書物ニ  
クズ先將ハ書面ノ事デゴサル

今考

唐欽函論政事載北堂書鈔曰勢者君之與威者君之策國者君之與勢者

君之馬注並韓子

又善政即載勢之數張韓子曰勢者君之馬也威者君之轡也勢國則與威國之

別字即臣注別馬良民知制驂利

今ノ韓子並此法

韓子外儲說左曰國者君之車也勢者君之馬也

又外儲說右下曰國者君之車也勢者君之馬也云術以御之方雖有術不

免亂術則國之害也

又難勢曰今以國位為車以勢為馬以御令為車以刑罰為難策使竟奔

即之則天下治

○

憶東山

詩ハ李白東山隱居  
思シテテ作ルル候

李白

我今推乃謝妓長嘯絕人群為報東山云開闢掃白雲





求諫

諫諍

公平

學

知過

慎終

慷慨

賞譽

暴君

淫佚

納諫

寵遇

賞罰

書籍

戒懼

慎言

自立

品藻

自用

疑惑

求治

政術

朝貢

武備

孝

知命

後悔

識見

貪暴

輕躁

尊賢

政治

征伐

兵

復恩

知恩

避嫌

豪俠

諂諛

自取

御下

固本

文武

者修

慎微

知微

節儉

隱逸

推故

失當

臣職

禮樂

文史

慎始

果敢

援助

簡傲

多欲

驕吝

簡傲

禍福

失意

親疎

言笑

習慣

無敵

宴會

鳥獸

治亂

人倫

人事

疾病

生死

交友

酒食

譬喻類

災變

盛衰

賢愚

性情

喪

自然

親

虛字通用

六躬違

起居

雜技

美人

感應

勢交

貨財

以上百三

御下

固本

文武

者修

慎微

知微

節儉

隱逸

推故

失當

臣職

禮樂

文史

慎始

果敢

右譬喻類中ノ類ハハリノ類右ノ自録類ニ似テ  
求治 知過 恩遇 寬容 政術 固本 持馬 援助 貪暴 喜  
自取 失策 失當 福 謙 慎始 優劣 極要 難易 通用 三十八門  
習慣 威心 振交 賤難 優劣 極要 難易 通用 三十八門

一冊ニサレテ  
以下ハ吉凶禍福ノ類ヲマツメテ  
以下ハ善行ノ類ニマツメテ  
以上諸類中ニ片付テ入リ  
以下一通人倫ヨリノ類ニマツメテ  
以下ハ才下ノ類ニマツメテ  
以下ハ才下ノ類ニマツメテ

右ノ通リノ順ニ遊升シ可然欲ト奉存候。○系ヲ仕美ハ一類ツノ  
印ニ付在候

○七月八日落手

大坪秀永ヨリ添状 部外御并下向ニ包

縮朒 コホ何トヨミカ  
シラレトヨミカ

シラレ候トシリゴシテ致シ義

將辨嚴 何ノ支度トカ

多ク旅支度ノトニ用ニ

尤有佳致 フモシコシトカ

無難致 有ル決テ

厲掲 ナニトヨミカ  
ハ字何ノトカ

命ノ通ニコサレ但シ雅致ハ風流ノヲモキト申スガサ

論語ノ文字 深則厲浅則掲

厲ハバダカニテヲユキ候

一掲ハスラカサテワタリ候トイッレモ水ヲ渡ル致方水ノ深浅ニヨリテ渡リ方  
ニガフト申スラ譬ニテ人ノ用ヒ方世ノアリサニヨリテ此方ノ身ノ入レ方ニ差別  
シ申候

鍼砭俗耳 而斗酒双柑

日本文抄

コレハ世説言語載仲若ト云 春日携双柑斗酒人問何之答曰往聽黃鸝声此俗  
耳鍼砭詩腸鼓吹ト申シタルト有之ヲカウニ用ヒ候ニ即サ同世説方ヲ

尚取道サレ馬獸ノ部ニ入アハサレ有ル也  
及相斗酒ハ面白キ文字ニサレハ別ニ又酒食ノ部ニ入トモ有ル也

古易所申文言ノ内

黄矢ハ解九ノ文字

君子若矢之謀易矣小人鋸齒之謀易也

黄ハ中ノ色矢ハ直キ物即チ中直ヲ申シ候鋸齒ハ通  
剛險難ノ物害ヲ野ハ事ヲ申ス中直ノ善心也

朝廷

如人捏目見月为二

捏乃指及ラツ言チソ 廣談怪棟僧約檢取也

借指示月

此義未存候 唐虞使聖乾祐ト云月ヲ玩ヒ成ル人月中ニ何カ有ト同シハ乾祐君指ニ通  
テ見ルトトテ見セケルハ字極極同ヲ見ルルト有候ハ其事ニ有之向及チ禪録ニ出ル也

利家

事ニ有之カ奉存候尚吟味ノ上ヲ考テ候 右ニ部外モ在兼候

花京小人之欲去君子辞不順 理不直必妻非浸 潤以侵 蝕之

華前ハ詩云文字華字ハ成ル是貝錦トテ説言ヲ致ス者ハ言ヲ巧ニシ錦ヲクニトウ  
クシク織之ル様ニシトア一 浸潤ハ論語ノ文字是モ浸テ言ヲ上手ニ致スナ説言ト記又花京  
ハ水ノシコム如ク漸ニ人主ノ腹ニシコメセト云 侵蝕ハ日月蝕ノ如ク次第ニ侵シテ

履大系 賈子所謂人争为宰相而不死为世子 非宰相尊而世子卑也不可以知求



不可以中争也

今年ノ通りニゴザル

大退大象

蓋如人之辞由卦象以繫然天下之物莫不在易中易象鏡也水月也

也分拘泥而述說

鏡花水月ノ形見ヘテキニ取ラレテ物ニテ易象ノ象也

ソ目ニ見エレシワラフヘテワラフニ必キ物ニ拘泥ト述シテハユカズト云テ拘泥ノ深クカ

〇後附記

物ノハジニル也

〇大退

形勢 天在中 芥子納須弥之意

須弥ト伊説ニテ世界ヲタトヘテ須弥山ト云テ揚ラ作り

〇初九

ト申スル也

有修 必于游刃之際擇善刀之心

並子ニ厄下牛ヲ料理スルニ骨人但先中ニ刀ヲ入ルニ云々

〇大退

片時モ其心ヲ忘レズト申スル也

〇大退上六

治通 足以推波助澜非救時之道

波瀾ハ騒動シニタトヘテ推助ノ手付

〇何升マ大衆

忘人食信眉

未詳候吟味 仕掛ルニテ可表下ト

〇大退

石換玉粗換精

粗ハアラクシキ物精ニシラケルコトマキ物

〇大退 三寸之鍵能閉百尺之闕一絲之綸可割于吞舟之鯉

割手ハ自由ニヒキマモ

〇大退

指空手而懸市視粉忘月對牛彈琴何下得乎

視粉忘月ハ兼修但

〇大退 戒懼之蓋善心雖根着醜行易滋益愛

根着ト云ヒ候根ノハハト根ツクニト

〇大退 穢陋占兇

穢陋ト云ヒ穢ニシテリハヤキ事ニシテ

〇大退

又十數項術其占驗以此大易驚鳥一毛偶似驢耳

驚鳥ハ後ニタマハ馬驢ハ名

〇大退 易字類編序 白橋撰







竹居之... 柳之... 再... 言... 竹... 三...

竹居... 柳之... 再... 言... 竹... 三... 柳... 竹... 三...

頃日 老公植垂柳于園前且暮對之以為養性且具蓋取其軟柔無風雪之害以全天年也 今揮賦一絕

楊千絲浴雨新 芳園不帶世間塵 飄飄一任天風拊 淺綠依然幾百春

世上... 柳... 竹... 三...

丙寅

乙丑冬十一月初五西上十一月十二日謝歸廿五日歸家其十日 老疾許拜謁始有用字格同日再奉之命即夜奉答三條東歸後又有同日

用字格不字例 乙丑十一月廿八日落手 丙寅二月奉答 八日橫山也一記

一表... 二... 三... 不食... 禮... 三... 不食... 再... 字... 加... 九...

表... 不食... 禮... 三... 不食... 再... 字... 加... 九... 始... 三... 不食... 再...

一居... 不... 知... 我... 好... 尚... 三... 處... 三... 口... 阿... 再...

レヒテソノウケテ辨セトスレバヤルナリ

○吾我イソレモ自身ヲ稱シタレバ對ニ彼ニ對シテ相手ノアル文字吾ソノ相手ノ有毎ニカハラレバ  
○好有ゴノムト云々ニトハ厄尚ノ字意味添テ人ヲ思ハクニテ好マエハ此方ノ詞ニ決シ見ル  
○不吾知不知然格列ノ差列ナシ但復念主客ノカハリ或書キテ手ノ物ナキニテ上置下ニ置クニテノコトヘムリニ上下アル弁別ヲツケトスレバ却テ誤ルヲア  
ツケズト宜シキ事

一將不身服禮無以知士卒之寒暑

右ノ服スルト云イカヨウナリト云ハレバ服ノ服トモ云々云々礼ニ服ス力ニ服ト云々云々  
且改直解注文首ニ章本文トカワレバ本文ノ一句ヲ二句ニハルナリ

・服ニ服有ノ服ニテ身ニ着ケルコトヤリ服字持前ナリ衣服モ身ニ着ク義服禮ハ礼ヲ身ニ着ケ行フ義服カハ骨折ワザラ身ニツケ自身致ス  
・直解ノ首ニ章トハ為將而厚於自奉身不服礼則不知士卒之寒暑ト為將而厚於自便身不服礼則不知士卒之寒暑而體其情者トニ章ヲ指ス本又イソレモ一句ナリ將不身服礼無以知士卒之寒暑ト云一句ヲ解ルニ分リ易キタトニ厚於自奉身ニ厚於自奉

解文字ヲタシテ自身ヲハカリテ重ミカバハルニ下ニノアツキ寒暑モハミト云ト解ル  
ニテ候又將不身服カ無以知士卒之寒暑ト云句ヲ解ニ適己自便ノ字ヲタシ自身ノ解  
今ノヨキヨウニシテ骨折ワザラセザレバ下ノ骨折ラズニテキ又ト解ルニ候  
右ノ直解ノ意ハ句モ長クナリ意味ヲタシテ自身ノ字ヲ上ニカキナラ又標ニ書クニ此  
ニ章ダケハ同直解ノ中ニモ身ノ字上テル

一凡テ為ト云字ニ事ニ因ルナリソノ中漢書ハ不為侯喜也ナリ通鑑ハ為陛下不取也トアリコレハ兩様同キナリ差別ナシ後世ニ通鑑ノ様ニ書ク漢書ノ如ニ書クハ顛倒ニル此古今詞氣ノ違ナル

漢書不為君侯喜トアルハ君侯ノ自身ノ上ニ取テ甚面白ク存シ申サヌト云フ詞ニマハリ為君侯不喜ト云字例ニルヘキヲ不為侯喜ト書テアル通鑑ノ為陛下不取也トアルハ陛下ノ自身ノ上ニ取テ甚面白ク存スルト云詞ニテ漢書ノ義ト同シク差別ナシ後世ハ皆通鑑ノ様ニ書キテ漢書ノ如ニ書クハ顛倒トスルナリ然レ漢書顛倒ト云モアル今其頃ノ詞氣言葉ツキ右ノ如クテ都合宜シキナリ(軒ハ氏後世ノ例ニイタサレヌト云義)

不此之 或不一 不一之 不一之 此 一是之不 是字此ト同ナリ 是之斯以金亦有病矣

前五アミク一二三の形一文字一文字自不<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>莫之斯鑑可痛ト

是此大抵同様ニヤル但此ハコトシカト指<sup>ル</sup>文字

○莫之斯鑑ハ不<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>類ト見<sup>ル</sup>莫ハ不<sup>レ</sup>代<sup>リ</sup>斯此代<sup>リ</sup>鑑字ノ意所下ニルト又之

○十二月廿五日尼崎發

二月七日落手 二月廿七日松山遠區を三日日ニテ出<sup>ル</sup>セ

一可復 復可

此モ上ノ諸格ト同キコトニテ少違アレソノケ尤精微ナルコトナリ可復得<sup>ル</sup>手

トハ一度得<sup>ル</sup>ニ對<sup>シ</sup>コトヲ得<sup>ル</sup>ルコトナルコト云フ復可得<sup>ル</sup>手トカケハ一度得<sup>ル</sup>手

コトナリコトナリコトナリコトナリコトナリコトナリコトナリコトナリコトナリ

○御書入通リニヤル果<sup>シ</sup>大抵<sup>キ</sup>中<sup>ノ</sup>可<sup>ク</sup>相<sup>シ</sup>奉<sup>ル</sup>本<sup>ノ</sup>又乾<sup>キ</sup>奉<sup>ル</sup>可<sup>ク</sup>復<sup>ル</sup>種<sup>ノ</sup>而生<sup>ル</sup>矣ハ一度種<sup>ノ</sup>テ生<sup>ル</sup>長<sup>ク</sup>花<sup>キ</sup>サ<sup>キ</sup>実<sup>リ</sup>ル<sup>ル</sup>其<sup>ノ</sup>実<sup>ノ</sup>カ<sup>ク</sup>居<sup>ル</sup>ハ又<sup>ハ</sup>種<sup>ノ</sup>テ生<sup>ル</sup>ス<sup>ル</sup>ガ

テキルト云或三國志四方之表必復可合此度モ 復<sup>ル</sup>字ノ意 四方ノ氣ガ合<sup>ハ</sup>サレ<sup>ル</sup>コト云

一可處 可

可處<sup>ニ</sup>可<sup>モ</sup>其<sup>ノ</sup>思<sup>ハ</sup>ズ<sup>ル</sup>コトナシ可便<sup>ニ</sup>可<sup>ノ</sup>例<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>オ<sup>シ</sup>シ<sup>ル</sup>也

可便<sup>ニ</sup>可<sup>ノ</sup>例<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>投<sup>ル</sup>也<sup>ト</sup>云々<sup>ト</sup>可處<sup>ニ</sup>可<sup>ノ</sup>方<sup>ハ</sup>也<sup>ト</sup>云々<sup>ト</sup>可便<sup>ニ</sup>可<sup>ノ</sup>例<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>オ<sup>シ</sup>シ<sup>ル</sup>也

○處<sup>ハ</sup>ニ<sup>ハ</sup>カ<sup>ク</sup>或<sup>ハ</sup>ス<sup>ル</sup>ニ<sup>ハ</sup>カ<sup>ク</sup>例<sup>ハ</sup>ア<sup>ハ</sup>タ<sup>シ</sup>キ<sup>キ</sup>意<sup>アリ</sup>故<sup>ニ</sup>前後<sup>ノ</sup>考<sup>モ</sup>ナ<sup>リ</sup>早<sup>急</sup>ナル<sup>意</sup> 俄<sup>字</sup>トハ意<sup>異</sup>ニ

○コトハ字<sup>ノ</sup>例<sup>ヲ</sup>解<sup>シ</sup>タル<sup>コト</sup>ニテ可便<sup>ニ</sup>可<sup>ノ</sup>例<sup>ニ</sup>同<sup>シ</sup>ト<sup>ナ</sup>リ句<sup>ノ</sup>尾<sup>ニ</sup>也<sup>ト</sup>云<sup>ハ</sup>或<sup>ハ</sup>或<sup>ハ</sup>字<sup>アル</sup>ナ<sup>リ</sup>句<sup>及</sup>語<sup>ニ</sup>ナ<sup>リ</sup>句<sup>便</sup>例<sup>ハ</sup>三<sup>モ</sup>事<sup>亦</sup>便<sup>ニ</sup>兼<sup>ハ</sup>化<sup>例</sup>又<sup>宜</sup>可<sup>便</sup>言<sup>無</sup>輕<sup>重</sup>乎<sup>ハ</sup>及<sup>語</sup>ニ<sup>テ</sup>也<sup>ト</sup>云<sup>ハ</sup>字<sup>也</sup>云<sup>ハ</sup>字<sup>也</sup>アル<sup>ト</sup>同<sup>例</sup>ニ<sup>成</sup>ル

一可立 可

可立<sup>ニ</sup>可<sup>ノ</sup>義<sup>理</sup>ニ<sup>カ</sup>ル<sup>コト</sup>ナ<sup>シ</sup>文字<sup>ノ</sup>ツ<sup>リ</sup>ア<sup>ヒ</sup>ニ<sup>因</sup>テ<sup>置</sup>處<sup>ハ</sup>違<sup>フ</sup>也<sup>ト</sup>立<sup>可</sup>餓<sup>殺</sup>ト<sup>書</sup>ハ<sup>ツ</sup>ク

可立<sup>ニ</sup>可<sup>ノ</sup>義<sup>理</sup>ニ<sup>カ</sup>ル<sup>コト</sup>ナ<sup>シ</sup>文字<sup>ノ</sup>ツ<sup>リ</sup>ア<sup>ヒ</sup>ニ<sup>因</sup>テ<sup>置</sup>處<sup>ハ</sup>違<sup>フ</sup>也<sup>ト</sup>立<sup>可</sup>餓<sup>殺</sup>ト<sup>書</sup>ハ<sup>ツ</sup>ク

○コレ文章ヲ著ル者心ニ会得ズルニテコレクニテ不徳當ト口ニ出シ筆ニ書キテ云ハレズ  
折ラズテ文章ニツリアヒアルニテ其ツリアヒハ口傳モ云ヒ難キコトナリ

一可更可

可更可此モ不更不ノ例ニ準メ知シ  
不字格ナリトモ不更サラセサルコトモ更不セザルコトモスルコトモ  
更ト其上ニモトヤルコトモ有  
可更其更モ云ヒコトモ更可イタズキコトモ更上モイタズコトモ  
○イワレモ脚書本通ニユル

一可大ニ可

可大ニ可有大有ノ例ニ準シ知シ  
有字格ニテ裏ニ有ト云大ニアルコト大有ニ大ニアルコトモ  
可大ニアルテアルコトモ大ニアルコトモ  
大可有ニコウコトアルコトモ  
○可大ニアルコトモ大ニアルコトモ大可有ト云ハ大可有イト云フニテ大ニアルコトモ  
ヲカモキコトモ大ニアルコトモ

一可且可

可且可可字ノカリ所不同便可遠可ハ類ニ参考テ可ナリ  
ニテ可便サツクコトモ可便可サツクコトモ  
○コレ文字例ヲ云ル可便可可遠可ノ例ト雖も可字直所ニテカリ所不同カ  
可便可可遠可有ト大抵同コトモコレ等ト考考スレハカルト云ル  
文義ニ於テハ少シカリ有リ且字ニ爲且ニテカリコトモ此方ノ詞ニハマアト云キ  
事海陸地可且勿林以救民急ト云ハレバ林ヲ誰何サセ又カコト云カリ其餘  
且可便者ト云ハレバ其餘ト云フコトモ  
ト云フ後カウコトモヘキコトモ且ニテ  
可便者ト云フコトモ  
可便者ト云フコトモ

一可皆可

可皆可可字ノ例トモ案スレトモ可皆可コトモ  
此モ不独可ノ例トモ案スレトモ可皆可コトモ  
○可皆可可字ノ例トモ案スレトモ可皆可コトモ  
可皆可可字ノ例トモ案スレトモ可皆可コトモ  
可皆可可字ノ例トモ案スレトモ可皆可コトモ































